

ロゴについて
人と人との縁を結ぶという意味合いの水引がモチーフです。文化芸術の歴史ある松阪(m)をみんな(m)で、芸術の力を借りながら感性を育み心が豊かになるカルチャー(culture(c)、松阪の過去～今を結んで未来へと続く魅力ある街への願いを込められた水引の道 ストリート(street(s)、今から続くストーリー(story(s)の想いを込め、形にしてみました。

SATELITE GALLERY

サテライト会場の展示内容

場 所 岡寺山継松寺
展示会名 池大雅展
開催期間 11月6日(土)・7日(日)・20日(土)・21日(日)
開場時間 9:00~16:00
住 所 松阪市中町1952
電話番号 TEL 0598-21-0965



場 所 ギャラリーカフェ うつくしや
展示会名 糸掛曼茶羅と石ころアート展、WSとライブ×マルシェとカフェと盛りだくさん!
開催期間 11月6日(土)~11月21日(日)のうち日替わり開催
開場時間 11:00~18:00
定 休 日 不定休
住 所 松阪市中町1940
電話番号 TEL 0598-21-0220



場 所 GALLERY+CAFE DOODLE
展示会名 アールブリュットカフェ
開催期間 11月2日(火)~11月14日(日)
11月6日(土) ポンティー新平さんの妖精作りワークショップ
開場時間 11:00~17:00(最終日16:00まで)
定 休 日 月曜定休
住 所 松阪市中町1857
電話番号 TEL 0598-68-9093



場 所 pieceピース cafe&store
展示会名 いわさき智沙 米蔵でワングホー。展
開催期間 11月6日(土)~11月15日(月)
開場時間 10:00~20:00
定 休 日 火曜日
住 所 松阪市本町2180mae蔵
電話番号 TEL 0598-67-8249



場 所 松本紙店 ギャラリーMOS
展示会名 花~もののはれの美~下期
開催期間 11月6日(土)~11月21日(日)
開場時間 10:00~18:00
(最終日16:00まで)
定 休 日 木曜日
住 所 松阪市中町1870
電話番号 TEL 0598-21-0603



場 所 ギャラリー森田
展示会名 古今茶道具展
開催期間 11月6日(土)~11月20日(土)
開場時間 9:00~17:00
定 休 日 日曜日・祝日
住 所 松阪市中町1948
電話番号 TEL 0598-21-3178



場 所 柳屋奉善
展示会名 みんなのご縁展
開催期間 11月6日(土)~11月21日(日)
開場時間 10:00~15:00
定 休 日 火曜日・水曜日・11月18日(木)
住 所 松阪市中町1877
電話番号 TEL 0598-21-0138



ACCESS

松阪市へのアクセス

電車でお越しの際

- 名古屋方面から
名古屋駅→(JR・近鉄)→松阪駅(JR・近鉄)
所要時間:約1時間5分~15分(JR快速みえ・近鉄特急を利用)
- 大阪方面から
大阪難波駅→(近鉄)→松阪駅(JR・近鉄)
所要時間:約1時間45分(近鉄特急を利用)
- 京都方面から
京都駅→(近鉄)→松阪駅(JR・近鉄)
所要時間:約1時間35分(近鉄特急を利用)

車でお越しの際

- 名古屋方面から
東名阪自動車道→伊勢自動車道→松阪IC
所要時間:約1時間30分
- 大阪方面から
西名阪自動車道→名阪国道→関Jct→伊勢自動車道→松阪IC
所要時間:約2時間30分
- 京都方面から
名神自動車道→新名神自動車道→亀山Jct→伊勢自動車道→松阪IC
所要時間:約1時間15分

主催:(有)松本紙店 共催:松阪市、NPO法人松阪歴史文化舎

協力または後援:宗教法人継松寺、GALLERY+CAFE DOODLE、(株)東村呉服店、(株)ギャラリー森田、(株)柳屋奉善、(株)WORK FOR YOU (一社)松阪市観光協会、松阪商工会議所、松阪市商店街連合会、(株)三十三銀行、(株)中日新聞社(順不同)

松阪カルチャー 스트リート
ホームページ



歴史文化舎ホームページ



松阪の魅力が芸術で再発見し
楽しむイベントを行います。

松阪カルチャー 스트リート

まつさかの、むかしの今と、いまの今

2021/ 11.6.sat > 21.sun 午前9時から午後4時30分(月曜休館)
※最終日展示は午後2時終了(一部公開期間が異なる作品がございます。詳しくはWEBでご確認ください)

メイン会場 旧長谷川治郎兵衛家、旧小津清左衛門家、原田二郎旧宅 ※旧長谷川治郎兵衛家、旧小津清左衛門家は既設の入場料に準ずる
サテライト会場 岡寺山継松寺、ギャラリーカフェ うつくしや、GALLERY+CAFE DOODLE、pieceピース cafe&store、松本紙店 ギャラリーMOS、ギャラリー森田、柳屋奉善

<https://culture-street.jp>



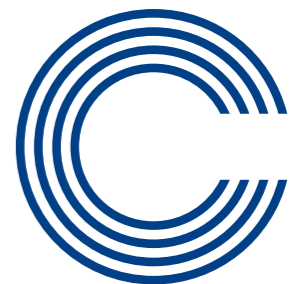
[出品作家]

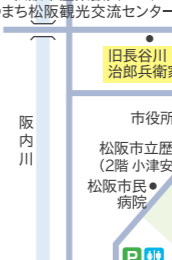
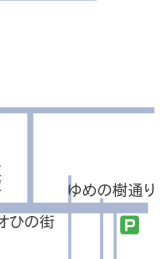
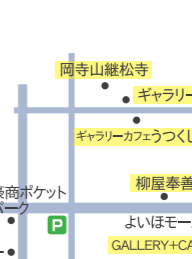
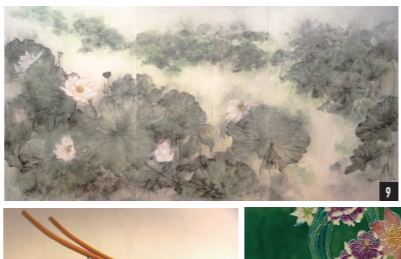
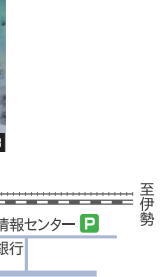
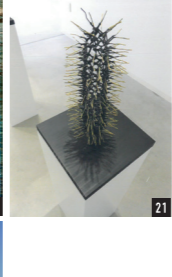
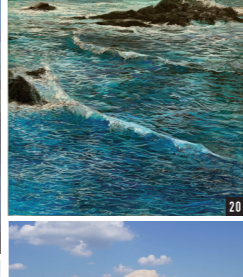
足立徹 岩佐義寛 大西佑一 貝塚茜 金澤尚武 金子洋平 甲村有未菜 瀬永能雅 高田久恵 高田実季
高橋光彦 田中香里 出口潮 富山宣子 中嶋草太 並木久矩 橋本絵里奈 藤木貴子 前村実 森島昌行
山本莞二 ヤマト真 山守良佳 横田千明 横山欣司

ARTS for the future! 文化庁「ARTS for the future!」
コロナ禍を乗り越えるための
文化芸術活動の充実支援事業

[問合せ先] 松本紙店 ギャラリーMOS
〒515-0083 三重県松阪市中町1870
TEL 0598-21-0603

**MATSUSAKA
CULTURE STREET**





松阪カルチャーストリート

まつさかの、むかしの今と、いまの今

開催時期および期間 11月6日～11月21日 (16日間) (旧宅は休館日月曜を除く14日間)
旧宅 [午前9時から午後4時30分 (最終日展示は午後2時終了) ※施設へは午後4時30分まで入館できます] ほか [開催日時は各場所による]

参加費 要入場料、既設の入場料に準じます (観覧別途負担なし)

開催場所 **メイン会場** | 旧宅 (旧長谷川治郎兵衛家、旧小津清左衛門家、原田二郎旧宅)
サテライト会場 | 岡寺山継松寺、ギャラリーカフェ うつくしや、GALLERY+CAFE DOODLE、pieceピース cafe&store、松本紙店 ギャラリーMOS、ギャラリー森田、柳屋春善

1 足立徹 / 三重県を拠点に、全国に旅をして風情ある日本の風景を描きとめています。誰も心の裡にあるふるさとと風景と共感できれば幸せです。
2 岩佐義寛 / 男・女・家族など人物、ゆかりの地の風景、優美さを纏う花など静物、テーマとしたものは具象の世界だが、巡る想いを彩るように、飽くなき探求心で、絶えず表現に変化を求め、筆が止まるまで描き続けた。
3 大西佑一 / 素材に触れ、その表情を探る行為の中で自らの記憶を追体験し、「自身の内面にある感覚やイメージ」を立体へと置き換え、空間において可視化させていく。土の造形と向き合う行為は、自身にとって「それら」を素直な視点で捉えるための一手段であり、内と外、その境界を探るためのファインダーでもある。
4 貝塚茜 / いつも、変形を変えて現れる「得体の知れない何か」を描いています。『kolo』では「内に何かを秘めているもの」「正体が見え隠れしているもの」をパイに置き換えて表現しました。これからも、鑑賞者の好奇心や探究心を喚ぶ作品を目指して制作していきます。
5 金澤尚武 / 最近、より日本画に魅せられ、岩絵の具の美しさに感動しながら制作しています。いまだに画材の扱いには困惑することもあります。そこが日本画の魅力であり、また日本人の美意識や精神性に合っているのかなと感じています。美しいと思った瞬間、その時の感動を作品に託しています。

6 金子洋平 / 以前から登山が好きだったこともあり、主に山岳風景をテーマに制作しています。実際に歩いてきた者にしか描けない山の姿を表すため、多少無理をしても現地に入り、スケッチして頂くことを大切にしています。
7 甲村有未菜 / 日々積み重なっては消えていく、記憶の片隅にあるようないつの日か見たことのある場所、時間、温度、湿度、匂い。顔料の重なりや素材の物質感を通して、時間の経過と共に在り続けるであろうその充実を、留めておきたいと思い制作しています。
8 瀬永能雅 / 大画面のテレビモニターでは自分の肉眼では絶対見えないようなくっきりとした世界を観てくれるけど、リアルに感じる事は少し違うようだ。自分の感じているリアルに少しでも近づきたい。
9 高田久恵 / 忘れてしまったと思っていた記憶でも、いつか似た感動と出会えた時、もう一度思い出せることができる。失くしたものがもう戻らなくても、感じた記憶は失われないと信じて、心の奥に在り続ける景色を描いています。
10 高田実季 / 人間の態度は生活のかたちとしてあらわれ、それを俯瞰したとき、風景として社会のかたちが見えてくる。私は美術という手段を持ち、自然と人工というどちらにも敬うべき領域や様々な境界を行き来しながら、私たちがどのように生きていくのか考え、つくるといった小さな行為を続けていく。

11 高橋光彦 / 目に映る軽やかさと心の浮遊感を重ねて、しなやかに揺れる心象風景を「か・た・ち」にする作業を続けてきました。「のこされた か・た・ち」は個別の作品名ではなく、追い求めてきたものの総体をさしています。「か・た・ち」はひとまず私から離れるのですが、いつも距離を置いて、「のこされた」ことを私に問いかけてくる。
12 田中香里 / 例えば、出掛けた先で犬に出会うこと 例えば、散歩していたらシロツメクサの冠を拾ったこと 例えば、野原でスズメに出会ったこと 例えば、こんな夢を昨日みたこと 誰かからすると「それっぽっち」の私の今日を描いていた
13 出口潮 / 日々の生活の中で見つけた、他愛もなく、でも愛おしく心が少しだけ明るくなった日常の切り取りをモチーフに作陶しています。
14 富山宣子 / 時をためて・・・ 心の添う自由空間を表現したいと思っています
15 中嶋草太 / 陶土による素材表現で自然や生き物から受ける生命感をカタチにしています。現在は蝉や蝶などの昆虫の羽化、種子または蕾の発芽や開花といった内側から外側に出てくる瞬間の力強さに惹かれ、作品制作におけるテーマとなっています。

松阪の魅力を芸術で再発見し楽しむイベントを行います。

旧長谷川治郎兵衛家

江戸時代の本郷問屋「丹波屋」を営んだ長谷川家の邸宅。空間を広く使った佇まいは、当時の松阪商人の裕福な暮らしがうかがえる。創業時から大切に保管されてきた商業資料、古文書、蔵書類など、商人で賑わった時代の雰囲気を感じる膨大な資料が保管されています。(国指定重要文化財・県指定史跡及び名勝)

旧小津清左衛門家

紙問屋を営み、江戸に店舗を持っていた松阪でも屈指の豪商の本宅。町家造りの主屋に加え、向座敷・料理場、内蔵、前蔵などが残り、当時の商人の暮らしがわかる貴重な建物です。(県指定有形文化財・市指定史跡)

原田二郎旧宅

明治・大正期に活躍した篤志家・原田二郎の旧宅。江戸時代から続く武士の住まいを、原田二郎が松阪に帰郷していた明治15年(1882)に増築したもので、その頃の町並りを再現した文化的な価値が高い建物です。(市指定有形文化財)

旧長谷川治郎兵衛家で松阪ゆかりの写真家・魚住誠一作品が映像により紹介されます。

松阪の写真家・魚住誠一 (上映時間10分10秒)

魚住誠一は大正期から昭和前期にかけて地元松阪を拠点に活躍した写真家です。当時の写真界は、絵画的な画面効果や構図を取り入れ、芸術性を高めた「ビクトリアリズム」(絵画主義)が流行し、魚住もその影響を受けながら独自の質感をもつプロムオイル印画法(銀塩白黒写真の銀をインクに置き換える版画のような技法)を用いた作品を多く残しました。今回は、その原板であるガラス乾板より91点を選りすぐり、デジタル画像でご紹介します。魚住は風景、人物、静物と様々な題材に取り組んでいますが、その中には松阪の町が題材となっているものも何点か含まれています。本居宣長旧宅、日野町界隈、祇園祭、三重県立工業学校(現在の三重県立松阪工業高等学校)、西黒部尋常高等小学校(現在の松阪市立西黒部小学校)、松阪警察署東岸江巡査派出所など、当時の松阪を知るうえで貴重な資料であるだけでなく、写真の構図、明暗の配分、そこに通底する写真家魚住誠一の詩的なまなざしが、当時の風景や人々の生きた証を鮮明に映し出しています。

映像提供: 三重県立美術館

16 並木久矩 / 私の制作テーマは「ヒトの知性を探る」です。ヒトの知性とは抽象を扱う能力であり、その抽象は我々人類の生活の基盤となっています。しかしその歴史はいつから始まったモノなのでしょうか。それを探っていくことは我々の今を考えることだけにとどまらず、今後の未来までも見通す力を得ることなのではないでしょうか。

17 橋本絵里奈 / 画面と向き合う瞬間、無意識に呼吸した身体行為を繰り返すことによって日常の中で刷り込まれている表層的な意識を画面に擦り付けます。少しずつ絵の具を積み重ねてゆくことで時間と質量が閉じ込められ、部分ごとに空間が前後するような複雑な構造が生まれてきています。画面の奥に微かに感じられる本質を引き摺り出し、目に見える現実との乖離をなくすことで現実と夢幻との境界が曖昧になってゆくのを感ずるのです。

18 藤本貴子 / 静かに、強い生命力を持って佇む植物の姿はとでも興味深い対象です。そんな植物のありのままの姿を、スケッチして日常的に記録に残すようにしています。そしてそこから、よりイメージがわいたものを日本画として自由な色味で作品にしています。日本画では、岩絵の具の粒子の細かさの違いや絵の具そのものの美しい色を活かしながら制作することを心がけています。

19 前村実 / 「ヤカレタモノと対峙する」をテーマに、陶土・ガラス・鉄・コンクリート・石膏粘土・木・紙等を素材としたり、成形したモノを実際に焼成。このプロセスから得られる物質の変容や、炎の痕跡をメッセージとする作品を制作している。

20 森嶋昌行 / 当たり前の事ですが、描きたいものを描きたいように表現しています。写実から抽象までその時々自身の心情を油彩、水彩などで楽しみながら制作しています。最近は風景画が多いです。昔は年に一二度、スケッチに行く程度でしたが、ここ数年は今までに見た中で心に強く残っている景色を多く描いています。

21 山本篤二 / 小学校・中学校・高等学校・三重大学と松阪に過ごし松阪は思い出の一杯ある街です。自然界にある繊細な光の現象に惹かれて制作を続けております。素材はずっと真鍮を使っており、研磨したその光に魅了されて40年程になります。

22 ヤマト実 / 身近な生きものの営みの中に小さな輝きを見つけた時、私の制作への扉が開かれます。現在、黒箔を背景に表現することが多いです。これはある経験からです。ある夏の強い日差しの中、美しくも白く光る雑草に生命力を感じたという出来事がありました。私は自然に黒い紙にスケッチをしました。このことから黒箔の背景が生まれました。葉の花を見た時、なぜか私の目の前で2匹の蝶が戯れています。現実と幻想を交えて表現してみました。

23 山守良佳 / 形のないものを描くという雲を掴むような行為を続けていく中で、ふと誰かの心に触れる瞬間があります。ひとときの交わり、また分かれていく時を重ね、絵を描いているのかあるいは絵に描かれているのか、ふと思うことがあります。

24 横田千明 / 乾漆技法による彫刻作品です。古くは奈良時代、信仰の対象である仏像を制作するための技法でした。そんな乾漆技法で、動物をモチーフに作品を制作しています。動物のあるがままに生きる姿、同じ動物として、そのまっすぐな生命力に惹かれます。

25 横山欣司 / 土味や焼き味やらにこだわっていますが見る人皆さんの感性で楽しんでいただければありがたいと思い制作しております。

